

会員病院はいま～北から南から～ No.58

北海道

安心・信頼・満足の医療提供を目指し 特長ある病院から必要とされる病院へ

医療法人北志会 札幌ライラック病院理事長 志田一彦

〒062-0906 北海道札幌市豊平区豊平6条8-2-18
 Tel. (011) 812-8822 Fax. (011) 831-2015
 URL <http://www.lilac.or.jp>



札幌ライラック病院の概要

病床数：167床・一般障害者病床（10対1）90床、
 医療療養病床（20対1）77床

施設基準：障害者施設等入院基本科10：1、療養病
 棟入院基本科2、療養病棟療養環境加算1、特
 殊疾患入院施設管理加算、療養環境加算、運動
 器リハ1、脳血管疾患等リハ2、入院時生活療
 養費1、薬剤管理指導料、栄養管理実施加算、
 手術前医学管理料、在宅時医学総合管理料、退
 院調整加算、神経学的検査、ペースメーカー移
 植交換術、医療機器安全管理料1（ほか
 診療科目：内科、神経内科、消化器科、整形外科、
 リハビリテーション科

職員数：医師15名（常勤9、非常勤6）、看護師64
 名、准看護師22名、看護補助39名、介護福祉
 士23名、薬剤師2名、放射線技師2名、臨床
 検査技師1名、管理栄養士1名、栄養士2名
 理学療法士5名、作業療法士5名、物理療法
 技師2名、MSW4名、事務職員11名

関連施設：ラベンダー在宅療養クリニック（在宅支
 援診療所）、居宅介護支援事業所「らいらっく」、
 デイケアセンター「らいらっく」、訪問看護事業
 所「らいらっく」、訪問介護事業所「らいらっく」、
 特別養護老人ホーム「らいらっく」（社会福祉
 法人北志会）

慢性期医療を主体に 在宅療養支援にも力を注ぐ

当院は「安心・信頼・満足」の医療を地域に
 提供することを理念に、札幌中心部に隣接する
 豊平区に内科、整形外科、リハビリテーションを
 主にした169床の病院として昭和60年11月に開院
 した。今年で開院25年を迎えるが、この間、慢性
 期医療を主体に取り組み、平成19年に介護保険
 病床58床を療養病床に、その後一般障害者病床
 にするなど病棟機能を変更、現在は内科、神経
 内科、消化器科、整形外科、リハビリテーション
 科を標榜、病棟構成も一般障害者病棟2病棟
 （90床）、療養病棟2病棟（77床）となっている。

また、地域密着型の病院として在宅療養支援
 にも力を入れており、居宅介護支援事業所、通
 所リハ、訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問
 リハ、在宅療養支援診療所、別法人ではあるが
 特別養護老人ホーム等を順次開設し、地域住民、
 地域医療機関、道内医療機関との連携強化に力
 を注いでいる。

人工呼吸器と神経難病に特化して 患者の混在状況を解消

開院以来、特別許可病床から療養病床、介護

病床へと高齢者の慢性期医療に携わってきた
 が、平成18年の診療報酬改定を受け、自院の
 医療資源を見直し、地域急性期病院との連携
 を促進するため、病院機能の変革に着手した。

当院はもともと重度意識障害・神経難病
 など、医療ニーズが高い患者が多数を占めて
 いたこと、看護師などスタッフも比較的余裕
 を持って配置していたことなどから、一般障
 害者病棟への転換が可能であったが、既に
 「障害者病棟」であることが特色とはいえない
 状況であり、さらに一歩踏み込んだ医療資源
 の活用を行った。そこで、呼吸管理経験のある
 2名の麻酔科医を中心とした、慢性期人工
 呼吸器装着患者の長期療養可能病棟、3名
 の神経内科専門医を中心とした神経難病患
 者の治療を行う障害者病棟として、平成19年
 2月より一般障害者病棟（13：1・58床）を
 開設、その後10：1にランクアップした。

また、人工呼吸器患者の増加に伴い、平成
 20年12月より人工呼吸器病棟42床、神経難
 病病棟48床に増床機能を分化させ、患者の混
 在状態を解消することで、医師や看護師等の
 業務の効率化を図るとともに、神経内科専門
 医の増員、看護師の増員、臨床工学技士の採
 用、非常用電源の増設など、病棟環境の整備
 を行っている。

地方病院との連携強化 地域連携部主体で取り組む

当院は「療養病床」のイメージが強く、人
 工呼吸器患者を受け入れることを知ってもら
 うことが重要であった。市内病院には比較的
 浸透は早かったが、地方での人工呼吸器装着
 患者の受入先不足が深刻であることを踏まえ、



写真 受付ロビー

地方病院への広報に力を入れている。

地方への広報は、地域連携部主体で地方基
 幹病院への訪問活動を行い、パンフレット等
 も配ってくるが、紙媒体では情報量に限度が
 あり、①家族への説明に担当者が苦慮してい
 る、②地方のため病院見学が簡単ではない、
 ③知りたい情報が少ない——等の理由から病
 院案内DVDを作成し、配布している。

DVDには院内案内をはじめ、商業施設や
 金融機関情報を含めた周囲の環境、交通アク
 セス、駐車場等をテレビで見ることができ
 るため、家族内でのコンセンサスが取りやす
 くなる等の効果を期待している。

現在、人工呼吸器患者の受入相談は全道
 に広がりつつあり、その病状も多岐にわた
 るようになっている。特に、神経難病病棟を持
 ったことにより、ALS患者受入れ要請が増え
 ていくものと考えている。意識清明な患者に
 対する呼吸器リハの提供など、ケアの質の向
 上はもちろん、レスパイトケアへの取り組み、
 患者用インターネット環境の整備など、ソフト・ハード両面の充実を図ることで、今後も
 特長ある病院づくりを展開し、「必要とされる
 病院」となるよう日々努力を重ねていきたい。